

石川裕夏

福井県コンクリート診断士会

会長にきく

国土交通省がインフラメンテナンスに関するすぐれた取り組み事例を公募して紹介する「グッドプラクティス」に、福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）の活動が選ばれ、このほど同省が運営するインターネット上のインフラメンテナンス情報ポータルサイトで「地域のコンクリート構造物の維持管理に貢献」福井県コンクリート診断士会の取組」として公表された（<http://www.mit.go.jp/soseisaku/maintenance/034.html>）。石川会長に同診断士会の活動状況や今後の展望などを聞いた。

——今回、福井県診断士会の取り組みが国交省に高く評価された。

石川会長 今回選ばれた47件、延べ68者の取り組みのうち、個人の集まりである任意団体の活動としては唯一当会が選ばれた。北陸3県からの認定としても唯一だ。

とくに高く評価されたのは、県や県内自治体の橋梁長寿命化修繕計画策定委員会等に委員として会員を派遣したり、自治

体職員向けに講習会を開催するなど、地元自治体に対して幅広い技術支援を行っている点だ。

——福井県診断士会は以前から「地域密着型」をキーワードに活動を行ってきた。

石川会長 当然ながら、診断士会としての活動の柱の一つは会員の継続教育・相互研鑽であるが、同時に、地元自治体との連携を軸にした地域密着型の活動には一貫して力を注いできた。これは他地区の診断士会には見られない特徴といっ

て、自治体の診断士会に占める発注者の割合が高いのも当会の特色となっている。

——こうした技術支援を通じて、診断士の存在や技術などを地元自治体に知っていただき、信頼を

得てきたことが、当県を中心とした診断士の活躍の場の拡大につながったと実感している。こうした取り組みによりコンクリート診断士の「地域ブ

ランド化」を図ることも

可能と考えている。そもそもコンクリート構造物は、地域の材料を使って造られ、地域の自然環境下に置かれるもの。維持管理には構造物への愛着も必要になる。「地域のコンクリート構造物の維持管理は、その地域のことをよく知る、地域のコンクリート診断士が担う」を引き続き当会の理念としていきたい。

——国交省の民間資格

「診断」業務でコンクリート診断士が積極的に活用されることになり、コンクリート診断士は対象施設および対象業務の適用範囲が最も広い民間資格となった。

別診断士登録者数をみると、15年4月1日現在で全国最多である東京の1764人、2番目に多い大阪の897人を大きく下回り、福井県は138人で全国で18番目となることを考えると、当会の組織率が際立って高いことがわかる。

地域密着で「グッドプラクティス」認定

自治体支援し信頼育む

登録制度では2月の追加登録で、コンクリート診断の業務が拡大された。

石川会長 対象構造物と業務の登録範囲の拡大は懸案だったが、今回の登録でコンクリート診断士の能力が適切に評価されたと考える。今後、

橋梁（コンクリート橋）、「同（鋼橋）」、「ト

高揚を図っていききたい。——福井県診断士会は設立から13年目。

石川会長 全国に先駆けて04年3月に発足し、当初は13人だった会員も現在110人を数える。正会員が100人を超える診断士会は、全国22地区で東京、北海道、新潟と当会だけだ。都道府県

以上、診断士の資質の向上、倫理観の肝に銘じており、当会としてこれまで診断士の認知が比較的高まっていることがあって、断士の見合ったものであることが大前提となる。登録範囲と同時に責任もより大きくなったことは、肝に銘じており、当会としてこれまで診断士の認知が比較的高まっていることがあって、断士の見合ったものであることが大前提となる。登録範囲と同時に責任もより大きくなったことは、



今後、今回国交省にご評価いただいた地域密着型の活動を継続していくとともに、広く一般市民に対してインフラの維持管理の重要性を啓発するような取り組みにも力を入れていきたいと考えている。